

⑦ 障害者が暮らしやすい社会

20年後に実現したい姿

【障害のある人もない人も地域の担い手となり、地域で安心して暮らせる共生社会】

●障害に対する理解が深まり、障害のある人もない人も地域の担い手となる共生社会が実現するとともに、障害のある人が地域で安心・安全に暮らす福祉サービスや施設が整っています。

【希望に沿って働くことができる社会】

●障害のある人がその特性に応じて能力を発揮できるよう、福祉的就労の充実や一般就労に向けた支援などの環境が整い、自らの意思と希望に沿って生き生きと働くことができる社会が実現しています。

【文化芸術やスポーツなどの分野で能力を生かして活躍できる社会】

●文化芸術やスポーツ、その他社会生活全般において、障害のある人もない人も共にその能力を生かして活躍できる社会が実現しています。

4年間の対応方向・具体方策

障害児者が地域で安心して生活できるよう、医療・福祉サービス体制を拡充します。

- 1 「発達障害児支援拠点」の北・中・南部の整備、「こども発達支援センター」を中核とした人材育成等、市町村や教育機関と連携した支援体制の構築
- 2 高次脳機能障害者に対し、切れ目のない支援を実施するため、「北部リハビリテーション支援センター」にコーディネーターを配置
- 3 医療的ケア児等について、治療・療養まで一貫した支援体制の構築と家族へのレスパイト対策の充実
- 4 医療的ケア児や発達障害児等及びその保護者に対し、適切な支援が提供できる仕組みの構築
- 5 医療的ケア児への生活支援について、地域の相談支援事業所にコーディネーターを養成・配置
- 6 児童発達支援センターについて、各市町村に1箇所以上の設置促進と療育の質の向上のための支援
- 7 放課後等デイサービスについて、技術的支援や研修を通じたサービスの質の向上の推進
- 8 重度心身障害児者について、各市町村に対応可能な通所事業所を拡大し、地域生活を支援
- 9 障害者の重度化・高齢化への対応と、グループホーム等の施設の防災・減災、老朽化対策の推進

障害のある人が地域で自立して安心して暮らせるよう、福祉的就労における工賃の向上、就労準備から企業とのマッチングなど、行政、福祉事業所、企業、学校、NPOなどが連携した支援体制を充実します。

- 10 「京都市農福連携・6次産業化プロジェクト」を創設し、6次産業化やブランド化を支援
- 11 企業ニーズと求職障害者をきめ細やかにマッチングさせた実践型実習による就業・定着の推進
- 12 精神障害者の就業を促進するため、ICT等を活用した在宅起業の支援や就業の場の創出
- 13 新商品開発やブランド化、ICTの活用等による高付加価値化等、福祉的就労における工賃向上の促進
- 14 府立高等技術専門校における、各障害特性等に応じた職業訓練等による就労・定着支援の推進
- 15 ヘルプマークの普及の推進
- 16 「聞こえのサポーター」の養成
- 17 自らの経験を通して、障害のある人を理解できるピアサポーターの養成による寄添い支援の実施
- 18 障害のある人や支援団体との意見交換や相談の場を通じたニーズや課題の共有、解決に向けた取組の推進
- 19 精神障害による長期入院患者等が退院後、地域で安心して暮らせるよう支援計画の作成等を支援

障害者が文化芸術・スポーツ分野で活躍できる機会や地域で障害のある人もない人も一緒になって活動・交流できる場を創出します。

- 20 「障害者アート創造・発信プロジェクト」を創設し、
 - ▷障害者のアート作品の販売、ポストカードとして商品化するなどの取組を推進
 - ▷新しい作家の発掘を含め、その創作活動とともにデジタルにより記録・保存し、国内外に発信
 - ▷きょうと障害者文化芸術推進機構と府内の芸術大学とのコラボレーションによる作品展等の開催
- 21 全国車いす駅伝競走大会の実施に際し、障害者・健常者混成での編成を導入
- 22 「サン・アビリティーズ城陽」等で実施されるスポーツイベント等を通じ国内のトップ選手に触れる機会を創出
- 23 障害者スポーツ指導員を養成し、府内各地で障害者がスポーツに親しめるよう支援
- 24 東京2020パラリンピックやワールドマスターズゲームズ2021関西の開催を通じ、障害者のスポーツ参加等を推進
- 25 特別支援学校において、ボッチャの大会等を通じ、地域の学校やスポーツクラブとの交流を推進